

第6学年 音楽科学習指導案	<h2 style="margin: 0;">曲の特徴にふさわしい表現を工夫して演奏しよう</h2> <p style="margin: 0;">日 時：令和3年10月1日（金）第5校時</p>
----------------------	---

1 題材について

【題材の目標】

- 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりを理解し、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける。
- 音色、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
- 曲の特徴にふさわしい表現を工夫して演奏する学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に取り組み、器楽合奏に親しむ。

〔指導事項との関連〕

- A表現（2）
器楽ア
イ（イ）
ウ（イ）

〔児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕

- ア 音色
イ 音楽の縦と横との関係

【教材】「L-O-V-E」（B.ケンプフェルト作曲・平野次郎編曲）

【題材について】

本題材は、多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりを理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な演奏の技能を身に付け、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、器楽合奏に親しむことをねらっている。

本教材は、各パートが単純なリズムでできているため、児童は音楽の縦と横との関係を考え、楽器を選択したり、奏法等を様々に試したりしながら思いに合った表現の工夫をして、比較的容易に演奏することができると思われる。教科書の楽譜は、主旋律、和音、副旋律、低音、リズムと、パートの役割が明確に記されており、楽器の指定がないため、音楽の縦と横との関係を考え、自由な楽器選択をすることができる。また、イ・ウの部分は、何回繰り返してもよいと記されているので、グループごとに交代しながら演奏することができる。いろいろな楽器の組合せの演奏を楽しむこともできる。楽器の組合せを試行錯誤して工夫する過程で、音色や響きのよさや面白さ、美しさを感じ取ることができる教材である。

本題材で楽器を選択したり、曲の特徴にふさわしい表現を工夫したりする過程を楽しみながら、器楽合奏に主体的に取り組む態度を育てていきたい。

【児童の実態】

本学級の児童は、日頃から友達の表現を認め合う姿がよく見られ、一人一人の意見を大事にしてグループで話し合う活動に取り組むことに慣れている。

第5学年6月には「茶色的小びん」でグループごとの器楽合奏を経験し、主旋律と低音のパートの役割を学習した。また、第6学年6月には「言葉をもとにリズムで遊ぼう！」でつくった音楽に合う打楽器を選び演奏する学習をした。打楽器の音色の特徴を捉えて主旋律のパートにふさわしい音色の楽器を選んだり、基本となる拍を打つリズムパートに合う楽器を選んだりすることができた。音楽の縦と横との関係を考え、各パートにふさわしい楽器を選択したり、どのように演奏したいかについて自分たちの思いや意図をもって曲の特徴にふさわしい表現の工夫をしたりする学習は、今回が初めてである。

【指導に当たって】

○ 主体的に学ぶための工夫

- ・ 児童がイメージを共有して主体的に曲の特徴にふさわしい表現を工夫することができるように、グループごとに演奏してみて感じ取ったことを「〇〇なL-O-V-E」というテーマに表すようにする。
- ・ 児童が演奏する楽器の組合せによって曲の表情が変化することに気づき、音楽の縦と横との関係を考え、楽器を選ぶことができるようにするために、木琴・鉄琴・アコーディオン・ミニキーボードの楽器群を用意する。
- ・ 自分たちがイメージする演奏に合う響きを探することができるよう、楽器群やグループごとに打楽器セットを用意する。

○ 音色に着目するための手立て

- ・ 自分たちの演奏する楽器の音色や合奏全体の響きを聴き取りやすくするために、グループごとに演奏する場所を分け、グループごとに選んだ楽器を準備しておく。
- ・ 楽器の選択や奏法を工夫することで表現効果が高まったかどうかを確かめることができるように、適宜必要な場面で演奏を録音するなどして聴き比べる場を設定し、自分たちの演奏のよさを実感できるようにする。

○ 学びを深める場の設定の工夫

- ・ 学習活動や振り返りの場面において、互いの演奏を聴き合い、感じたこと（よいところ）を伝え合う場を設定することで、さらに自分たちのよりよい表現の工夫に生かすことができるようにする。教師は、児童の工夫のよさを価値付けて、全体で共有することができるようにする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解している。</p> <p>②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けている。</p>	<p>① 音色、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 楽器の音色や響きの組合せを工夫して演奏する学習に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

3 指導と評価の計画（7時間）

丸数字・・・全員の学習状況を記録に残す場面

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
第一次 ◎ 曲の特徴を捉え、楽しみながら演奏する。				
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「L-O-V-E」の範奏を聴き、曲の特徴を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「L-O-V-E」を聴き、感じたことを共有する。 ○ パート①（主旋律）の旋律の特徴を捉え、特徴を生かして演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ パート①のイ・ウ・エのどこから演奏したいか考え、音の動きや反復などの旋律の特徴を理解する。 ・ 旋律の特徴を生かして演奏する。 			
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 打楽器パート・低音パート・和音パートの範奏を聴き、旋律の特徴やパートの役割を捉え、特徴を生かして演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 打楽器パートのイの部分、トライアングルとカスタネットを演奏する。 ・ 和音パート・低音パートのイの部分、ミニキーボードで演奏する。 ・ ミニキーボードの音色を変えて演奏し、どんな感じがするか気が付いたことを伝え合う。 			
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽の縦と横との関係を考えて、楽器群の中から各パートの楽器を選んだり、演奏したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の希望の楽器を選び、木琴グループ・鉄琴グループ・アコーディオングループ・ミニキーボードグループに分かれる。 ・ パートの役割をよりどころにして、楽器群の中から各パートの楽器を選び、分担する。 ・ パートの役割を意識して、担当の楽器を演奏する。 			
第二次 ◎ 曲の特徴にふさわしい表現の工夫をする。				
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとの演奏を聴き、それぞれの楽器が生み出す雰囲気や音色の違いを感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで合奏しながら、楽器が生み出す雰囲気や音色の響きの違いについて、感じ取ったことを伝え合う。 ・ 楽器グループごとに、イの部分演奏する。 ・ 演奏を聴き、そこから感じ取ったことを自分なりの言葉で伝えたり、ワークシートに記述したりする。 ・ 表したい「○○なL-O-V-E」をグループで話し合って決める。 	↓		
第5時（本時）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの表したい「○○なL-O-V-E」にふさわしい表現を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に音を出して試しながら、自分たちの表したい「○○なL-O-V-E」にふさわしい表現を工夫する。 ・ イの部分演奏する。 ・ 互いの演奏を聴き合い、工夫やよさを伝え合う。 		↓	

第6時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの表したい「○○なL-O-V-E」にふさわしい表現を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に音を出して試しながら、自分たちの表したい「○○なL-O-V-E」にふさわしい表現を工夫する。 ・ イ・ウの部分、グループごとに演奏する。 ・ 互いの演奏を聴き合い、工夫やよさを伝え合う。 		↓ ①	↓
第7時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音色や響きに気を付けて合奏し、旋律楽器及び打楽器で演奏する技能を身に付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「○○なL-O-V-E」になるように工夫した点を紹介し、グループごとに全体を通して発表し、聴き合う。 ・ グループごとの演奏のよさを見付け、感じたことを伝え合う。 	↓ ②技		↓ ①

4 本時の目標（5／7時間）

☆ 自分たちの表したい「○○なL-O-V-E」にふさわしい表現を工夫して、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。

5 授業の視点

- 木琴・鉄琴・アコーディオン・ミニキーボードの楽器群を用意したり、「○○なL-O-V-E」のテーマにふさわしい表現を工夫したりしたことは、児童が主体的に表現を工夫することに有効であったか。
- 互いの演奏を聴き合い、聴き取ったこと（よいところ）を伝え合う場合は、児童の思考を深めるために有効であったか。

6 本時の展開（5／7時間）

学習活動	教師の働きかけ(指示・説明・発問) 予想される児童の姿(・)	教師の支援(○) 個への支援(※)	評価(☆) (評価方法)
1 前時の学習を想起する。	<p>グループごとに話し合っ、「○○なL-O-V-E」のタイトルを決めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森のL-O-V-E ・ ゲームの世界のL-O-V-E ・ 野外活動の夜のL-O-V-E ・ 高級感レストランで流れるL-O-V-E 	○ 前時の学習を想起し、本時の学習に意欲的に取り組むことができるよう、前時の演奏動画や写真などを提示する。	
2 本時のめあてを確認する。	<p>実際に音を出して試しながら、グループごとに自分たちの表したい「○○なL-O-V-E」の表現を工夫しましょう。</p>		
もっと「○○なL-O-V-E」になるように、表現を工夫しよう			
3 自分たちの表したい「L-O-V-E」にふさわしい表現を工夫する。	<p>「○○なL-O-V-E」の感じを出すためには、どんな工夫をしたらよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奏法を変える。 (レガート、スタッカートなど) ・ 打楽器の組合せを変える。 ・ 強弱や速度を変化させる。 ・ マレットを選ぶ。など <p>各グループで表現の工夫を考えて、演奏してみましょう。</p> <p>【木琴チーム】森のL-O-V-E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 速度を変える。 ・ スタッカートで演奏してみる。 <p>【鉄琴チーム】野外活動の夜のL-O-V-E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆっくりやさしく演奏する。 ・ キラキラした感じを出すために、鈴を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんなことが工夫できそうか全体で確認し、表現の工夫を試す見通しがもてるようにする。 ○ 自分たちの演奏する楽器の音色や合奏全体の響きを聴き取りやすくするために、練習場所を分散し、各場所に楽器を準備する。 ○ 思いや意図を明確にすることができるよう、 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>☆ 音色、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりにつ</p>

<p>4 グループごとに演奏し、工夫やよさを伝え合う。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>【アコーディオンチーム】 高級感レストランで流れるL-O-V-E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少々ゆっくり演奏する。 ・ 反復するところはクレッシェンドをする。 <p>【ミニキーボードチーム】 ゲームの世界のL-O-V-E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 速く演奏する。 ・ トライアングルをミュートで演奏する。 <p>グループごとに、どんな工夫をしたのかをみんなに伝えて、イの部分だけを演奏し、工夫する前の演奏と聴き比べましょう。</p> <p>他のグループの演奏のよいところをボードに書いたり、自分の気持ちに近い反応カードを選んで提示したりしましょう。</p> <p>今日の学習で気付いたことや感じたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な工夫を加えることで、自分たちの表したい「〇〇なL-O-V-E」の演奏になった。 	<p>なぜそのような工夫をしたのかを児童に問い返すようにする。</p> <p>※ 工夫を考えることが難しいグループには、「マレットを替えて比べてみよう。」などの具体的な提案を助言する。</p> <p>○ 工夫したことをワークシートに書き留めるよう促す。</p> <p>※ 書くことが難しい児童には個別に声を掛け、グループの工夫を書いたボードを参照して書くよう促す。</p> <p>○ 楽器の選択や奏法を工夫することで表現がよりよくなったかどうかを確かめるために、工夫する前と後の演奏を聴き比べるようにする。</p> <p>○ 聴き取ったことを相手によりよく伝えられるように、ボードや反応カードで自分の考えを提示する。</p> <p>○ 思いや意図をもって自分たちで工夫すると、世界に一つだけの「〇〇なL-O-V-E」の表現になる合奏の楽しさに気付くことができるようにする。</p>	<p>いて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 (行動観察・発言内容・ワークシート)</p>
---	--	--	--

7 板書計画

「L-O-V-E」 **強弱** **速度** 奏法 打楽器

めあて より「〇〇なL-O-V-E」になるように、表現を工夫しよう

学習の流れ

- ① めあて
- ② グループ練習
- ③ 聴き合う
- ④ 振り返り

木琴チーム

森のL-O-V-E

主旋律 S 木琴
和音 A 木琴
低音 B 木琴

打楽器1 ウッドブロック
打楽器2 カスタネット

工夫

- ・ 速く
- ♪ = 134
- ・ スタッカート

ミニキーボードチーム

ゲームの世界のL-O-V-E

主旋律 キーボード6 8
和音 キーボード6 9
低音 キーボード7 0

打楽器1 トライアングル
打楽器2 カスタネット

工夫

- ・ 速く
- ♪ = 200
- ・ トライアングルをミュート

鉄琴チーム

野外活動の夜のL-O-V-E

主旋律 グロックン
和音 ミニグロックン
低音 鉄琴

打楽器1 カバサ
打楽器2 鈴

工夫

- ・ ゆっくり
- ♪ = 100
- ・ やさしく
- mp

アコーディオンチーム

高級感レストランで流れるL-O-V-E

主旋律 Sアコーディオン
和音 Aアコーディオン
低音 Tアコーディオン

打楽器1 シェーカー
打楽器2 スタンドシンバル

工夫

- ・ ゆっくり
- ♪ = 110
- ・ 反復のところをクレッシェンドする。

- 4 -